

第109回一般質問一覧表

7.9.22

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
1	東野敏弘	西脇市の進むべき今後の方向について	(1)市長就任時の3つの復活について、現状認識を問う。 ○12年前の市長就任時、①経済の復活②教育の復活③住みやすさの復活を所信表明・施政方針で述べられたが、12年が経過し、公約の達成度をどう認識されているのか。	市長
			(2)西脇市が消滅可能性自治体の仲間入りをした要因をどう捉えているか。 ○平成26年の段階では消滅可能性自治体ではなかった西脇市が、令和6年において消滅可能性自治体の仲間入りをしてしまった原因をどう捉えているか。	
			(3)今後、西脇市の進むべき方向について ○片山市長は、来月執行される市長選挙に4選出馬表明をされているが、どのような西脇市を創ろうとされているのか。また、地域との信頼関係をどう創られるのか。	
			(4)西脇市で生まれた若者が西脇市にUターンするシステムづくりについて ○大学進学や就職等で、一時期、西脇市を離れた後にUターンして、起業しようという意欲を持った若者を応援する施策が必要と考える。併せて、仮称「ふるさと奨学金」制度の創設の提案について、市長の考えを問う。	
			(5)西脇市教育委員会が大切にすべき教育について ○黒田庄中学校ソフトボール部の県大会優勝・全国大会出場、吹奏楽部の関西コンクール出場に対する認識は。	教育長
			(6)西脇子午線マラソンの復活について ○「駅伝のまち西脇」「健幸都市・にしわき」と言われているが、多くの市民から42回の歴史を持つ子午線マラソンの復活を望む声を聞く。子午線マラソンの復活を検討すべきではないかと考えるが、教育長、市長の認識は。	市長 教育長

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
2	岸本年裕	活気あふれる西脇市の実現に向けて	(1)フィールドパビリオンの活用について ○西脇市には「播州織」や「日本のへそ」など、他にはない魅力的な地域資源がある。これらを万博のコンセプトでもある、未来社会の実験場とどう結びつけるのか。フィールドパビリオンに認定された意義を改めて確認し、それを最大限に活かす戦略が必要だと考える。	部長
			(2)持続的まちづくり戦略と観光・産業振興について ○令和5年9月議会では、万博を一過性のイベントで終わらず、その後の持続的な地域づくりにつなげるためのいくつかの提案を行った。万博会場での発信の成果と今後の産業観光の取組について問う。	
			(3)日本へそ公園の整備について ○本市の設定フィールドパビリオンでも日本のへそをテーマにした体験プログラムがあるが、日本のへそとして知られる日本へそ公園の活性化について問う。	
			(4)市民参画の促進について ○万博を機に市民の意識や参画をどう促すかという点について問う。	市長
3	坂部武美	公共交通を利用する学生への通学補助について	(1)加古川線を利用する学生への通学補助について	市長
			(2)加古川線以外のバスも含めた、公共交通を利用する学生への通学補助について	
		部活の地域展開について	(1)部活の地域展開の目的は。	教育長
			(2)いつになったら指導員、活動場所、費用等の具体的な方向が示せるのか。	
4	森脇久夫	西脇市の米作りについて	(1)水稲の作付け状況について ○食用米が高騰傾向にある中、今年度の食用米と山田錦の作付け状況を問う。	部長

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
			<p>(2)水稲の買い取り価格の推移と見通しについて</p> <p>○ふるさと納税を含め、西脇市は日本酒の原料として訴求力の高い山田錦の生産地としてPRしているが、食用米の価格上昇が、農家にとって山田錦を作る意欲に影響が出ていないかを問う。</p>	部長
			<p>(3)山田錦作りの支援について</p> <p>○国の米作りに対する政策が変わりつつある中、西脇市における「山田錦」作りへの支援についての考えを問う。</p>	市長
		少子化対策の充実について	<p>(1)不妊治療に対する支援について</p> <p>○不妊治療については、複数のメニューでサポートされているが、新たなメニューの検討はないのか。また、不妊治療についてはセンシティブな面があると思っており、WEBも含めた相談窓口の設置等について問う。</p>	部長
			<p>(2)出産祝い金について</p> <p>○少子化への対応として出産一時金支給などが挙げられるが、独自の祝い金制度を持っている自治体もある。西脇市として独自制度についての考えを問う。</p>	
			<p>(3)少子化対策の拡充について</p> <p>○自治体独自の支援策は、単なる人の取り合いと捉えられることはあるが、他自治体より劣ると選ばれないということにつながりかねない。市の考えを問う。</p>	市長

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
5	高瀬弘行	<p>教員の働き方改革と勤務時間の縮減について～「学校の働き方改革のための取組状況調査（令和6年9月1日時点）」の進捗状況を踏まえて～</p> <p>以下の【問】とは、上記の取組状況調査の調査項目を示す。</p>	<p>(1) 【問】 「所管する学校における教師の在校等時間の縮減に向けた取組を公表しているか」について、なぜ公表できていないのか。</p> <p>(2) 【問】 「所管する学校における業務改善の取組の促進にかかる定量的なフォローアップを実施しており、業務改善のPDCAサイクルを構築しているか」について、「既に実施した又は実施中」と回答しているが具体的内容は。</p> <p>(3) 【問】 「所管する学校において、学校運営協議会での学校における働き方改革についての議題化を促すなど、保護者や地域住民等の理解を得ながら取組を進めるよう指導・助言しているか」について、「実施に向けて検討中」とあるが現状は。</p> <p>(4) 【問】 「教育委員会として、各学校の労働安全衛生体制の整備・充実に向けた取組を行っている」とあるが、具体的な内容は。また【問】 「ストレスチェックや別の調査等において、教員の仕事と生活への満足度について、教育委員会で把握している」とあるが、ストレスチェックの結果とその対策は。</p> <p>(5) 【問】 「児童生徒の休み時間における対応は、地域人材等の協力を得ている」については、多くの市でも解決できていない課題であるが、今後の対応は。</p> <p>(6) 【問】 「学習評価や成績処理の補助的業務について、教師をサポートする支援スタッフの参画を図っている」について、他市でも解決できていない課題であるが、西脇市としての今後の対応は。また、 【問】 「学習評価や成績処理の補助的業務について、採点ソフトを導入するなどICTの活用を図っている」については、多くの自治体を取り入れているが、なぜ西脇市は遅れているのか。</p>	部長

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
			<p>(7)西脇市のHPでは「小学校教員の25%、中学校教員の48%が、月45時間以上の長時間勤務になっているとの調査結果が示されました」とあるが、西脇市における長時間勤務になっている教員の割合は。 （「過労死ラインとされる月80時間を超える教員の割合」と「月45時間または年間360時間を超える教員の割合」の過去5年間の推移を小学校と中学校に分けて）</p> <p>(8)上記の現状を受けて、長時間勤務解消に向けて、どのような課題があって、どのように改善しようとしているのか。 （ここでの答弁を受けて、具体的な課題解決に向けた議論を行う。）</p>	教育長
6	村井正信	P F A S （有機フッ素化合物） の子どもへの影響の対策を求める	<p>(1) P F A S 平均血中濃度の結果に対する市長の見解を問う。 ○5月31日、西脇市民25人が東神戸病院で検査を受けた。その結果を受けて、7月20日、P F A S 血液検査結果説明会が開催され、京都大学・小泉昭夫名誉教授から血液検査の結果と説明があった。7月21日の神戸新聞に掲載された要旨は「P F A S 問題 西脇市民25人、自主血液検査14人が米国の指針超え、西脇市民の平均は 23.3ng/mlとなり、最も高い人は上戸田浄水場の対象地域の人で 44.7ng/mlで米の指針値（20ng/ml）の2.2倍になった」という。環境省の2021年度の血中濃度検査全国調査 119人の平均は、4種合計で 8.7 ng/mlで、西脇市民の数値は高いことがわかる。市長はこの現実をどう考えているのか。</p>	市長

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
			<p>(2)上戸田浄水場管轄内の住民と管轄外の住民の血液検査の実施を求める。</p> <p>○PFASは、繊維産業では1960年代前半から撥水加工、防汚加工の分野で使用されるようになったとのこと。西脇市でも同じような時期からPFASが使用されてきたのではないかと想定される。既に長い期間PFASの入った水道水を飲まされてきた住民の体内への影響を調査するため、上戸田浄水場管轄内の住民と、管轄外の住民の血液検査を一定数実施することを求める。</p> <p>(3)出産時の乳児の体重の調査を求める。</p> <p>○PFASは母体血から臍帯血に移行するため、母親が汚染されると、生まれてくる子どもも汚染されていることになる。（臍帯血とは、胎児と母体をつなぐ胎児側の組織であるへその緒（臍帯）の中に含まれる胎児血）北海道大学と道内の医療機関、産科施設が協力して、2001年～2012年にかけて妊婦2万1,490人の胎児期から出産、そして学童期にかけてPFASの影響調査を行い、特に低体重の乳児が多いという特徴がわかった。低出生体重児は成人期に糖尿病や高血圧、高脂血症など、いわゆるメタボリックシンドロームを発症するリスクが高いという疫学調査の結果が相次いで報告されている。兵庫県の保健統計年報の平成13年（2001）から令和5年（2023）までの北播5市の出産時における低体重児（2,500g以下）の割合を調べると、低体重児の割合が10%を超える回数が多いのが西脇市であった。母子手帳を参考にして、上戸田浄水場の管轄内の地域に住む人が出産した乳児の体重と、それ以外の地域に住む人が出産した乳児の体重の調査を求める。</p>	市長

順位	氏名	大項目	小項目（要旨）	答弁
			<p>(4)「災害時協力井戸」の安全性の調査を実施すること</p> <p>○災害時協力井戸とは「地震等の大規模な災害が発生し、上水道の給水が停止した場合に、地域住民の生活用水を目的として、井戸水を提供いただける井戸を、西脇市に登録された井戸をいいます」と記載されている。西脇市として「地域住民の生活用水を目的とした井戸水」が安全かどうか、調査することを求める。</p>	市長
7	林 晴信	人口減少対策との向き合い方について	<p>(1)攻めの政策と守りの政策について</p> <p>○人口減少対策における攻めの政策と守りの政策、二律背反することもある政策だが、あえて比重を置くならどちらかを市全体の代表者である市長に問う。</p> <p>(2)子育て世代の環境づくりと施設統廃合について</p> <p>○子育て世代の呼び込み、定着と都市の効率化の両立をどのように図るべきなのか、市長の考えを問う。</p> <p>(3)移住定住支援・住宅政策とコンパクトシティについて</p> <p>○周辺部の発展・あるいは維持とコンパクトシティ、いわば人口維持と効率的な都市形成をどう両立させるのか市長の考えを問う。</p> <p>(4)人口減少は最大の危機であり、都市のリデザインのチャンス</p> <p>○人口減少は西脇市にとって最大の危機であり、同時に未来のまちづくりを構想し直すチャンスでもある。この試練ともいうべき時代に対する市長の決意を問う。</p>	市長